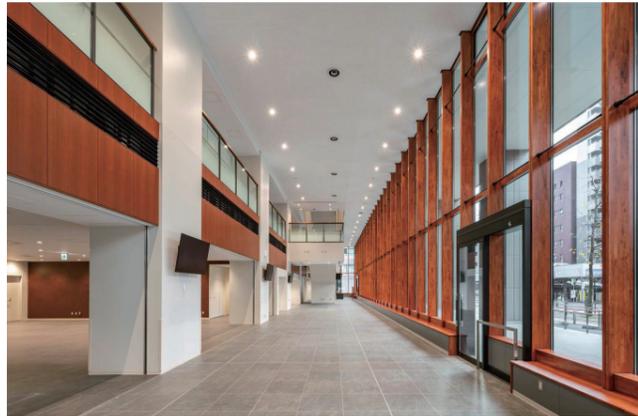


福岡市博多区役所庁舎



外観

外観のデザインは、博多織・献上柄の「親子縞」「孝行縞」のイメージを外装材で表現。また、一部の窓では意匠性に配慮した採光と発電を両立する太陽光発電ガラスを採用、省エネ性にも優れた建物である。



1Fロビー

転出入者が多い繁忙期の混雑緩和の為、1Fロビーは待合などにもなるフリースペースとしている。1Fから市民利用の多い3Fまではエスカレーターを設け利便性を確保している。



1Fトイレ前通路

離れている場所からも、ひと目で男女トイレとバリアフリートイレがわかるよう、通路空間に突き出したサインを設置。壁面とのコントラストをつけ、視覚的にも判断しやすくしている。



1Fトイレ入口

入口ドアは、周囲の壁や床とコントラストをつけ、視認性に配慮。扉には、室名とともにトイレの動作を大きなピクトグラムで掲示し、わかりやすさを追及。



1F男性トイレ

洗面は、ドライエリアを設けて荷物の置き場所に配慮したツインデッキカウンターを採用。深いボウルにより手洗いしやすく、周囲への水はねを抑制。また、床の清掃性に優れた壁掛型の自動洗浄小便器を選定している。



1F女性トイレ入口

トイレ入口には、トイレ内の動作をピクトグラムにしたサインや、廊下と壁の色を変えることで、だれもがトイレの場所や女性用であることが理解できるよう配慮。また、身繕いを整えられるよう全身鏡を設置している。



1F女性トイレ
スタイリングコーナー

スタイリングコーナーは、隣人の視線が気にならない個別鏡を採用。鏡に近づける奥行きが浅いカウンターや、顔色が明るく映る暖色系の壁にするなど、お化粧直しに配慮している。



1F女性トイレ
大便器ブース

すべてのブースに、洋式便器とウォシュレットを採用。1ヶ所には手すりを設置。大便器は節水性に優れ、フラッシュバルブ式と同様の連続洗浄が可能なパブリックコンパクト便器・フラッシュタンク式を採用。



1Fバリアフリートイレ

車いす使用者やお子様連れなど、さまざまな利用者に対応できるコンパクトバリアフリートイレパックを採用。腰壁に色をつけ便器の位置を目立たせる工夫や、大人でも使用できる多目的シートも設置している。



1Fバリアフリートイレ

外国人配慮として、多言語（英語・北京語・台湾語・韓国語・タイ語）の音声ガイドを設置。サインにはピクトグラムを併設し、日本語表記はふりがな付き文字とした。



2F男性トイレ
洗面コーナー

ドライエリアを設け、荷物の置き場所に配慮したツインデッキカウンターを採用。水栓は、メンテナンスに配慮した壁吐水となっている。また退出時に、身繕いの確認ができる全身鏡を入口に設置している。



2Fバリアフリートイレ

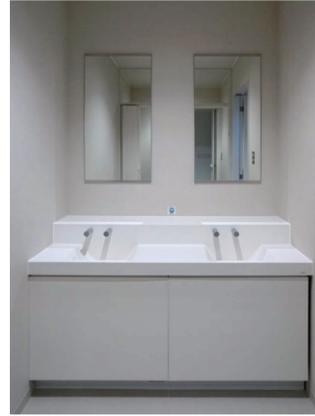
車いす使用者やお子様連れなど、さまざまな利用者に対応できるコンパクトバリアフリートイレパックを設置。さらに、お子様連れにも配慮してベビーチェア・ベビーシート・フィッティングボードを完備している。

福岡市博多区役所庁舎



7F休養室

職員のための男女別の休養室は、靴を脱いでリラックスできるような床は畳を採用。災害時には、宿直などの利用場面も想定している。



7F休養室
洗面・シャワールーム

各休養室内に設けた洗面・シャワールーム。洗面カウンターは手荷物がおけるツインデッキカウンターを採用。また、シャワールームは諸設備が非常用電源回路につながっており、停電時にも使用可能となっている。



エレベーターホール

ビルの外観をはじめ、博多織を空間意匠のモチーフとしている。エレベーターホールの階数表示などにも博多織の五色献上柄の色や模様を用い、利用者を和ませる工夫がなされている。



10F男性トイレ入口

手洗い後に肘で押して退出できるように外開きの入口ドアを採用。さらに、トイレの内外にいる人の気配が感じられるよう、すりガラスのスリットドアとしている。



10F男性トイレ
洗面コーナー

洗面カウンターの水栓は、非接触で水の出し止めができる壁付自動水栓を採用。またお客様連れに配慮し、男性トイレの洗面コーナーにも、ペーパーシートを設置している。



災害時持続可能な
防災拠点

大地震や水害発生後、建物が持続可能な中間層柱頭免震構造を採用した。インフラ途絶に対して72時間機能継続が可能なように、発電機、ガラス一体型太陽光パネル、水、排水槽などを設置している。



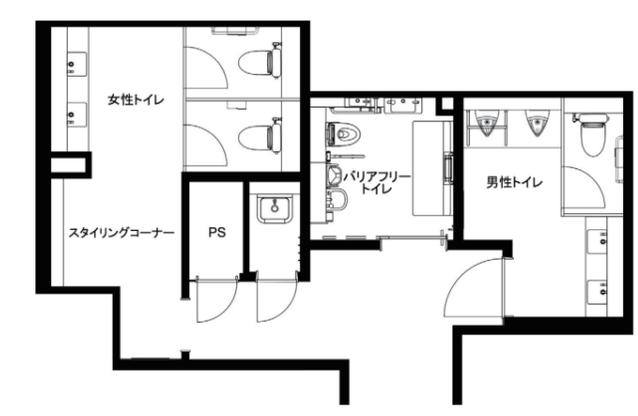
10F女性トイレ
洗面コーナー

洗面カウンターの水栓は、非接触で水の出し止めができる壁付自動水栓を採用。洗面コーナーの延長上に、スタイリングコーナーを配置。男性トイレ同様、洗面コーナーにペーパーシートを設置している。



10F女性トイレ
大便器ブース

お客様連れに配慮して、大便器ブースの1ヶ所にベビーチェアを設置。さらに使用中の姿勢の保持や、立ち座りをサポートするL型手すりを設置し、高齢者やさまざまな身体状況の方が安心して利用できる仕様となっている。



10Fトイレ図面

バリアフリートイレを挟んで両サイドに男女トイレを設置。男性トイレの入口は、手洗い後、取手に触れることなく肘でドアを押して退出できるように開閉の向きを工夫している。

水まわりの特長

建物の特徴

「福岡市博多区庁舎」は、1971(昭和46)年に建設、耐震診断を実施し、改修による耐震対策が困難であったため建替え、2022(令和4)年5月に開庁。新しい庁舎は、さまざまな省エネルギー技術などの導入によりZEB Readyを取得した注目の高い環境配慮建物。さらに、職員や利用者の健康に配慮したオフィスとしてCASBEEスマートウェルネスオフィスSランクの認証を庁舎で初取得した。建物は地下階を設けず中間層柱頭免震構造を採用している。また、「ユニバーサル都市・福岡」を目指してだれにでもわかりやすいデザインが盛り込まれた建物となっている。

水まわりの特長

福岡市は、みんながやさしい、みんなにやさしい「ユニバーサル都市・福岡」の実現に向けて、さまざまな取り組みを推進。トイレ入口ドアなど目立たせたい場所は、周囲の壁とコントラストをつけ視認性を向上させたり、文字とピクトグラムを併記して、サイズ感やカラーにこだわったサインを掲示するなどの提案が、やさしい街づくりの推進、啓蒙活動の一環として盛り込まれている。また衛生面にも配慮し、洗面カウンターには非接触で水の出し止めができる壁付自動水栓を設置。そのほかの採用器具も、衛生的でシンプル、コンパクト性に注力して選定している。さらに災害などで下水が使えなくなった際、地下ピットに汚水を溜められるなどして使用できるトイレを1Fに設置している。

建築概要

名称	福岡市博多区役所庁舎
所在地	福岡市博多区博多駅前2-174-2
施主	福岡市
設計	大成建設株式会社九州支店 一級建築士事務所
施工	大成建設株式会社九州支店
竣工年月	2021年12月
敷地面積	2,480.44㎡
建築面積	1,733.65㎡
延床面積	15,224.27㎡
構造・階数	鉄骨造・地上10階

おもなTOTO使用機器

- パブリックコンパクト便器・フラッシュタンク式:CFS49*系
- ウォシュレットPS (擬音装置「音姫」付きエコリモコン):TCF552*系
- スベア付き紙巻器:YH150 R/L S
- 自動洗浄小便器:UFS900WR
- ハイドロセラフロアPU:AB690系
- ツインデッキカウンター(ボウル一体タイプ):MKWE
- コンパクトバリアフリートイレパック:UADBZ61R1B1ADD2WA
- 収納式多目的シート:EWC520BRS
- ペーパーシート:YKA25S, YKA24S
- ペーパーチェア:YKA15S
- フィッティングボード:YKA41系
- フック:YKH21WR
- 化粧鏡:YMK52K
- シャワーユニット:JSV0812系